



株式会社ミツウロコ

〒101-8972

東京都千代田区外神田四丁目14番1号

TEL: 03-3258-6311 (代)

FAX: 03-3258-6340

mail: ir@mitsuuroko.co.jp



株式会社ミツウロコ

第101期中間報告書

2009年4月1日～2009年9月30日



MITSUUROKO Interim Report 101st



always evolving

ミツウロコは、次世代を担う子供たちのために、地球資源、環境をしっかりみつめお客様への快適な暮らしづくりのために貢献してまいります。



Comfortable

- LPガス
- LNG(液化天然ガス)
- 石油製品
- エコステーション



Friendly

- 風力発電
- コージェネレーション
- 太陽光発電
- リチウムイオン電池



Lively

- 富士の宝物バナジウム63天然水
- ブラチナウォーター



Hearty

- 不動産賃貸
- アミューズメント



Delightful

- 住宅設備機器・リフォーム
- 煉豆炭



お客様中心の経営を貫き、
時代とともにミツウロコは進化します。

代表取締役社長 田島晃平

Top Interview

トップインタビュー

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、おかげさまで私どもミツウロコグループは、節目となる第100期の事業年度を終え、新たなスタートを切りました。明治19年に運送店として創業以来、メーカー、そして事業会社へと時代とともに変貌を遂げ、現在も新たなエネルギー事業に取り組むなど進化を続けています。

ここに当社グループ第101期における第2四半期連結累計期間(2009年4月1日から2009年9月30日まで)の概況をご報告申し上げるにあたり、あらためて当社事業の現況と今後の展開についてご説明させていただきます。

エネルギー事業

当社グループの主力事業であるエネルギー事業は、低炭素社会の実現に向けた大きな潮流の中にあり、CO₂を2020年までに25%削減する目標を新政権が掲げるなど、その流れは一段と加速しています。この潮流はクリーンエネルギーなどの新分野では追い風となりますが、化石燃料中心の分野では慎重な舵取りを求められることとなります。環境型社会に向かう大転換期の中で、ブレーキではなくアクセルをどのように踏んでいくのが当社グループの最大の課題だと考えております。

現在、当社グループのエネルギー事業は、LPガスを中心に展開しております。LPガスは厨房機器用等で使用さ



エネルギーを「作る」・「配る」に「貯める」を加え、環境型エネルギー事業を推進。

れるエネルギーとして代表されるように、火力が強いことで知られていますが、エネルギーの生産から消費までのライフサイクルで見ると、環境負荷・CO₂発生が大変少ないエネルギーでもあります。また、分散型エネルギーとしての有用性が高く、日本のように地震などの天災が多い国では、復旧が早いエネルギーとしても注目されています。当社グループは、このLPガス業界におけるナンバーワン企業を目指し、重点エリアへの集中投資による顧客拡大や、営業拠点の整理による事業効率向上などに努めてまいりました。今後は各地域のパートナー企業との提携等により、それぞれの地域で最良のサービスを展開していくことで、この目標を実現してまいります。

新エネルギー

当社グループは、新エネルギーの開発と普及にいち早く取り組んできました。そのひとつが風力発電です。風力発電は国内においては非常にハードルの高い分野ですが、連結子会社であるエムアンドディーグリーンエネル

ギー株式会社を介して事業を推進し、現在、全発電所合計で当初の目標だった5万キロワットを発電しており、次のステップに向けて研究を進めています。

また、新エネルギー分野で当社グループが最も注力しているのが、太陽光発電システムとリチウムイオン電池です。太陽光発電システムでは、災害対応型給油所普及事業への対応や屋上緑化との併設促進など、様々な用途開発に取り組んでいます。リチウムイオン電池では、産学官連携で大型リチウムイオン電池の研究を進めてきたエリーパワー株式会社に出資し、高性能で安全な大型リチウムイオン電池の開発と普及を支援しています。リチウムイオン電池は貯めるだけでなく、エネルギーを制御しやすいという特徴があり、その広範な用途が期待されています。

当社グループは、この太陽光発電とリチウムイオン電池を組み合わせた事業展開を構想しており、エネルギーを「作る」「配る」ことに、「貯める」ことを加えたサービスを構築することで、より環境型のエネルギー事業にシフトしてまいります。

LPガスの特徴

- 一般的に毒性がなく無味無臭（家庭用はガス漏れ感知用に臭いあり）
- 常温・常圧では気体。冷却し液体になると体積が1/250になり持ち運びに便利
- 災害に強い（復旧が早い供給方式）
- 燃焼による排ガス中のCO₂量が少ない
- 総発熱量が高く、ハイパワー

Liquefied 液化
Petroleum 石油
Gas ガス

新エネルギー



経営資源の活用

LPガスや灯油等を中心とした当社グループのエネルギー事業は、お客様のご家庭に燃料を直接お届けできるという、お客様直結の販売網・物流網を持っています。当社グループには、この特徴を活かし、お客様から得た信頼をベースに構築された事業があります。例えば、住宅設備機器・リフォーム事業では、お客様からのご相談に応じてシステムキッチンやシステムバスなど、エネルギーが消費される様々な機器の周辺商品を販売し、そのメンテナンスも行っておりました。これらによるお客様直結の販売網・物流網は得難い財産だと考えており、そのパイプを今後はさらに太くしてまいります。

一般的な世帯の1ヶ月間の消費支出は約30万円といわれておりますが、その内の5～7%程度を当社グループからお買い上げいただけるような仕組みづくりを急いでおり、そのための商品ラインアップ充実に努めております。

賃貸事業等におきましては、この春オープンした

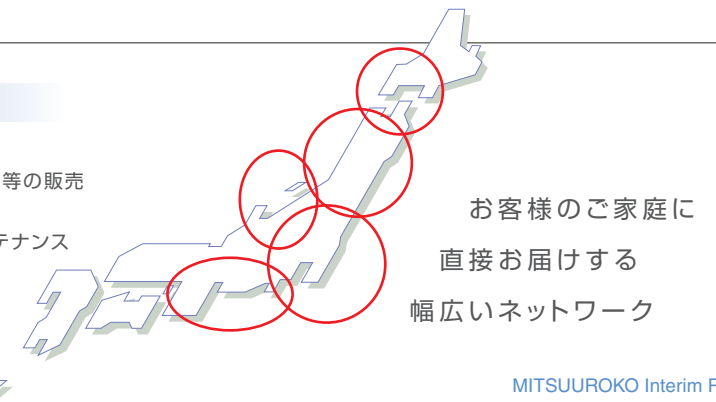


HAMABOWL EAS(ハマボール イアス)の竣工をもちまして、大規模プロジェクトは完了していますが、今後は全国に点在する保有不動産を、よりアウトプットを生み出す資産に入れ替えていくことが課題であり、これを積極的に推し進めてまいります。

ネットワーク

関東圏を中心としたエリアをカバー

- LPガス供給
- 石油製品、ガソリン、軽油等の販売
- 飲料水宅配
- 住宅設備機器販売・メンテナンス
- その他



お客様のご家庭に
直接お届けする
幅広いネットワーク



第2四半期の業績

当社グループ第101期における第2四半期連結累計期間(2009年4月1日から2009年9月30日まで)の概況を報告申し上げます。

当期間におけるわが国の経済情勢は、世界経済が停滞

する中で企業業績の不振や雇用環境の悪化、個人消費の低迷など依然として厳しい状況が続いております。

当社グループの主力事業であるエネルギー事業を取り巻く環境は、当社グループ主力商品であるLPガスの輸入価格となるCP(Contract Price=輸入通告価格)が4月以降1トン当たり400～600ドル付近を推移しており、需給余剰感もあることから長期的には下落することが期待されておりますが、現状では高水準でのコスト推移や、小売市場における同業者や他エネルギー事業者との顧客獲得競争の激化により、依然として利益確保が非常に困難な状況にあります。

こうした状況下、当社グループでは営業拠点の見直しや物流合理化策の推進等、事業効率向上施策を継続的に推進し、また、石油製品の販路拡大による拡販に努め、新たに開業した商業施設での賃貸収入の増加等もありましたが、アミューズメント事業における営業損失を補うことができませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前

年同期比22.9%減の575億9百万円、営業利益は前年同期比7.0%減の9億74百万円、経常利益は前年同期比13.1%減の9億79百万円、四半期純利益につきましては、前年同期比13.3%増の3億61百万円となりました。

今後の見通し

通期の見通しに関しては、最需要期の冬場に向けてCPが上昇局面に転ずると予測され、他エネルギーとの競争は益々厳しい状況が続くと考えております。

そうした中、2010年2月にはペットボトル入りミネラルウォーターを製造する新工場が山梨県に完成する予定であり、これにより、より広範な業態のお客様にお届けすることが可能になります。

既述のように、エネルギー事業においてはLPガス業界ナンバーワン企業を目指すとともに、太陽光発電・リチウムイオン電池併設型プロジェクトを積極的に推進してまいります。また、横浜の新しいランドマークとしてオープンしたHAMABOWL EAS(ハマボール イアス)については、地元横浜圏を中心とした利用促進に努めてまいります。

ミツウロコグループは創業以来、お客様中心の経営を企業活動の根底におき、時代とともに進化してまいりました。

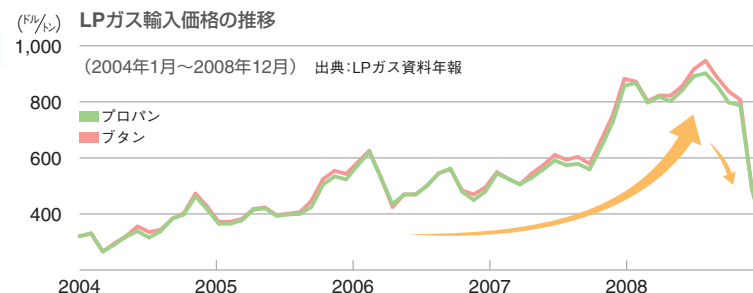


現在の状況は当社グループにとっても大きな転換期であり、エネルギーを事業の主軸に据えた企業として環境型社会の実現に貢献していくことが当社グループの競争力を高め、企業価値の増大に寄与するものと考えております。

これまで当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題として捉え、長年にわたり安定配当を続けさせていただいております。この方針は今後も変わりません。株主の皆様におかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

エネルギーを事業の主軸に据えた企業として 環境型社会の実現に貢献してまいります。

ハイライト	
売上高	575億9百万円(前年同期比22.9%減)
営業利益	9億74百万円(前年同期比7.0%減)
経常利益	9億79百万円(前年同期比13.1%減)
四半期純利益	3億61百万円(前年同期比13.3%増)



エネルギー供給者としての豊富な経験を活かした、
多様な事業でお客様の暮らしを支えています。

液化天然ガス

大気汚染物質のひとつである硫黄酸化物などの排出が少ないことから、環境対応型エネルギーとして注目が高まっている液化天然ガスを供給しています。

飲料水宅配

厳重な衛生管理が施された工場で製造されたミネラルウォーターを、お客様のご自宅までお届けしています。

風力発電

エネルギー分野における環境への適合をはかるための施策として、自然エネルギーを利用した環境にやさしい風力発電事業を推進しています。

エコステーション

低公害車として注目を集めるLPガス自動車やCNG(圧縮天然ガス)自動車を営業車両として導入するだけでなく、エコステーション(オートガス・CNG併設スタンド)設置により供給しています。

LPガス

保守の高度化や物流の合理化に取り組みながら、全国約80万世帯のお客様にパワフルでクリーンなLPガスを供給しています。

石油製品

ご家庭の暖房・給湯用の灯油のお届けから、サービスステーションでのガソリン・軽油の販売まで、皆様の快適な暮らしをサポートしています。

煉炭・豆炭

現在、主にレジャー用や災害用、道路工事(コンクリート養生)用として活躍している「煉炭・豆炭」等の固形燃料を製造・販売しています。

賃貸事業

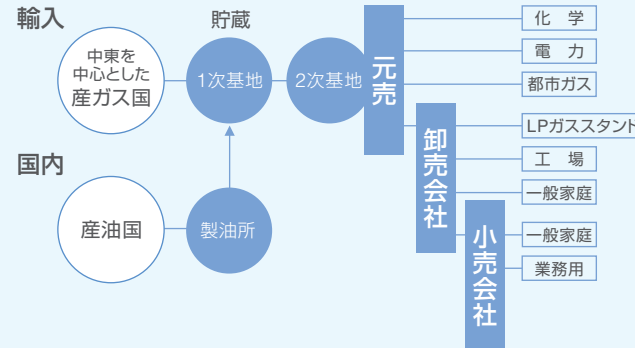
マンションやオフィスビル、商業施設などの賃貸事業を、管理・メンテナンス面に万全を期した体制で営んでいます。

太陽光発電・リチウムイオン電池

様々な施設に対して太陽光発電システムを積極的に導入する一方で、高機能で安全なリチウムイオン電池開発への支援も行っています。

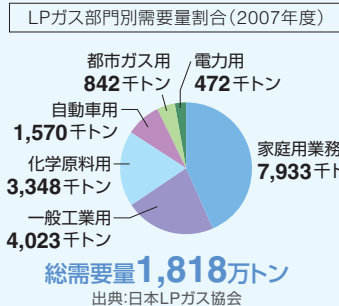
LPガスがお客様に届くまで

現在、LPガスは中東など国外からの輸入と、国内での石油精製時における副生ガスによるものが、元売会社→卸売会社→小売会社を経て一般家庭などのユーザーに届けられています。ミツウロコグループはLPガス事業のリーディングカンパニーとして、流通各段階からLPガスを実際に利用されるお客様に至るまで、供給ルート全体の安全確保と物流合理化などに継続的に取り組んでいます。



LPガスの需要

LPガスは運搬が容易なことから、全国津々浦々の家庭で長年にわたり使われてきました。現在、日本では約4,800万世帯でガスエネルギーが使用され、その内訳はLPガスと都市ガスで約半々となっています。一般家庭用の他に、タクシー等のLPG車用、産業用などにもLPガスは使われています。LPガスの需要は長期的には頭打ち傾向にあるといわれていますが、その一方で災害に強い分散型エネルギーとして再認識され、底堅い需要を維持しております。



クリーンエネルギー

LPガスは地球温暖化や大気汚染をもたらす粒子状物質を排出しないなど、環境負荷が小さなクリーンエネルギーです。

LPガスがクリーンエネルギーとして優れている点

- 排ガス中のCO₂量は、石油や石炭に比べ非常に少ない。
- 硫黄分の含有がほとんどなく、窒素もふくまれていない。
- ススや灰分を出さない。
- オゾン層破壊の心配がない。

お客様にご満足いただける供給体制を構築するために、ミツウロコはLPガス業界ナンバーワン企業を目指します。

LPガス市場の現況

LPガスや都市ガスなどのガス体エネルギーの需要は、一般家庭用においては電化住宅の増加により、長期的には頭打ち傾向といわれます。一方で産業用においては、他のエネルギーに比べてハイパワーであることなど、LPガスの特徴を求める根強い需要もあります。

LPガスはプライスポジションが他エネルギーに比べて高いといわれますが、その要因のひとつは価格構成に占める物流費にあります。

そうした中、LPガス業界では、規模拡大などによる物流コストの合理化と供給軒数増を目指す同業者間での競争が激しくなっています。

ミツウロコのLPガス事業

現在、当社グループは北海道から近畿地方まで営業展開を行っており、約80万世帯にLPガスをお届けしています。とりわけ関東地域においては、充実した販売網と物流網により、強固な事業基盤を築いています。

LPガス業界の課題である物流コストの合理化も、配送基地の統廃合や、販売では競合する同業他社との協力によりコスト低減を図るなど、あらゆる手法を講じながら継続的に合理化策を推進しています。その結果、LPガス市場全体は頭打ち傾向にあるものの、当社グループのLPガス供給軒数は堅調に推移しています。

今後の展望

当社グループは、お客様にご満足いただけるLPガス供給体制を構築するため、LPガス業界ナンバーワン企業になることを目指しています。安全かつ低コストでLPガスを供給していくためには、強固な基盤を築いている地域は徹底的に強化し、他の地域では他企業との提携等を積極的に進め、供給軒数の拡大と物流コストのさらなる低減を果たしていかなければなりません。

今後もこうした取り組みを継続し、LPガス事業のリーディングカンパニーとして事業基盤をさらに強化しながら、同時に次世代エネルギー等を中心とした他の事業へも積極的に取り組んでまいります。





四半期連結損益計算書（要旨）

（単位:百万円）

科 目	当第2四半期連結累計期間 2009年4月 1 日から 2009年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2008年4月 1 日から 2008年9月30日まで
売上高	57,509	74,556
売上原価	44,437	62,007
売上総利益	13,071	12,548
販売費及び一般管理費	12,096	11,500
営業利益	974	1,048
営業外収益	435	463
営業外費用	430	384
経常利益	979	1,127
特別利益	448	487
特別損失	281	455
税金等調整前四半期純利益	1,146	1,160
法人税、住民税及び事業税	759	913
法人税等調整額	21	△ 9
少数株主利益又は少数株主損失（△）	5	△ 62
四半期純利益	361	318

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）（単位:百万円）

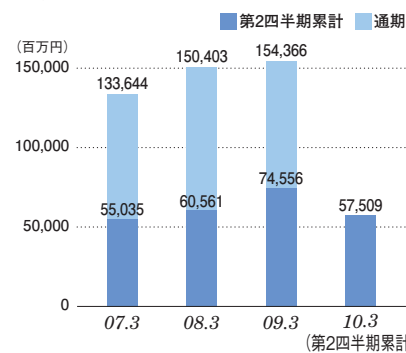
科 目	当第2四半期連結累計期間 2009年4月 1 日から 2009年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2008年4月 1 日から 2008年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,701	4,327
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,175	△ 4,214
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,253	914
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 728	1,026
現金及び現金同等物の期首残高	14,660	12,228
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	58	－
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,990	13,254

四半期連結貸借対照表（要旨）

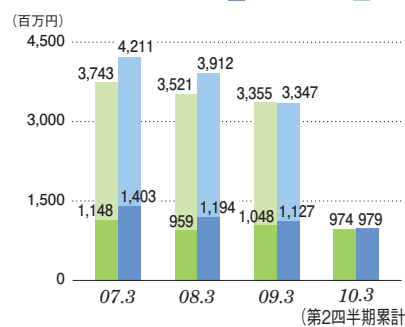
（単位:百万円）

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 2009年9月30日現在	前連結会計 年度末 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	44,175	47,511
現金及び預金	31,425	32,021
受取手形及び売掛金	8,445	10,714
商品及び製品	2,324	2,470
繰延税金資産	581	617
その他	1,504	1,777
貸倒引当金	△ 105	△ 89
固定資産	64,851	63,099
有形固定資産	40,128	41,164
建物及び構築物（純額）	14,965	15,630
機械装置及び運搬具（純額）	10,544	11,037
土地	13,054	13,121
建設仮勘定	283	66
その他（純額）	1,280	1,309
無形固定資産	4,148	4,665
のれん	3,480	3,944
その他	668	721
投資その他の資産	20,574	17,268
投資有価証券	10,426	8,166
繰延税金資産	870	905
その他	9,526	8,421
貸倒引当金	△ 248	△ 225
繰延資産	199	238
資産合計	109,226	110,849
負債の部		
流動負債	19,748	21,170
支払手形及び買掛金	7,365	8,444
短期借入金	7,751	7,609
未払法人税等	625	1,145
引当金	871	928
その他	3,133	3,043
固定負債	27,944	28,350
社債	3,000	3,000
長期借入金	15,667	16,010
繰延税金負債	1,873	1,564
退職給付引当金	1,768	1,774
その他	5,634	6,000
負債合計	47,693	49,521
純資産の部		
株主資本	60,399	60,900
資本金	7,077	7,077
資本剰余金	5,843	5,843
利益剰余金	48,049	48,550
自己株式	△ 572	△ 571
評価・換算差額等	1,023	322
その他有価証券評価差額金	1,326	638
繰延ヘッジ損益	△ 302	△ 315
少数株主持分	109	105
純資産合計	61,533	61,328
負債純資産合計	109,226	110,849

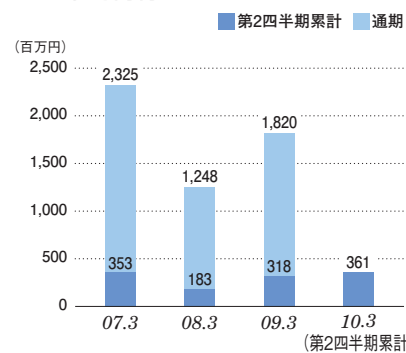
売上高



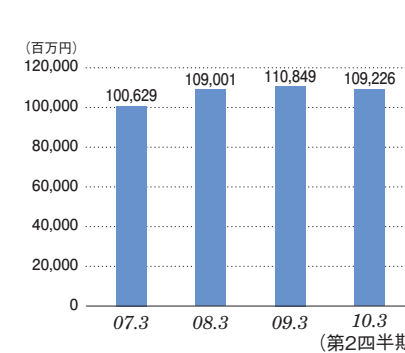
営業利益・経常利益



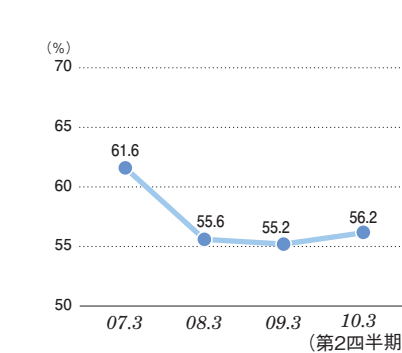
四半期純利益



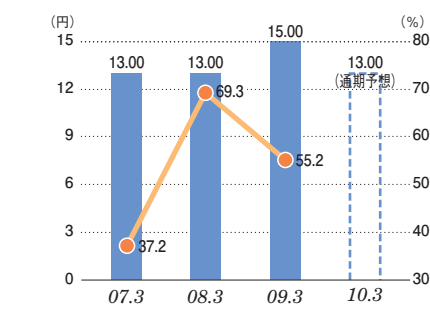
総資産



自己資本比率



1株当たり配当金・配当性向





会社概要（2009年9月30日現在）

社名	株式会社ミツウロコ
英文社名	MITSUUROKO CO., LTD.
主な事業内容	石油製品、LPガス、煉豆炭・石炭、住宅機器類および飲料水の販売、不動産賃貸業ならびに風力発電事業
本社所在地	〒101-8972 東京都千代田区外神田四丁目14番1号
設立年月日	1926年(大正15年)5月10日
資本金	70億77百万円
従業員数	1,720名(連結)
役員	取締役会長 田島直 代表取締役社長 田島晃平 代表取締役兼常務執行役員 渡邊雅人 取締役兼常務執行役員 奥山武夫 取締役兼常務執行役員 二見敦 取締役 櫻田弘 取締役 田島謙 常勤監査役 後藤武 常勤監査役 東川隆 監査役 山田勝重 監査役 二木馨三 監査役 太田康信 執行役員 藤村孝明 執行役員 岡部雅志 執行役員 原口稔 執行役員 藤江淳次 執行役員 宮永勇二 執行役員 松阪和人 執行役員 高岡康行 執行役員 信太真

株式の状況（2009年9月30日現在）

発行可能株式総数	197,735,000株
発行済株式の総数	68,137,308株
株主数	4,214名

上位株主（2009年9月30日現在）

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
明治安田生命保険相互会社	5,544,000	8.13
日本興亜損害保険株式会社	4,956,173	7.27
田島株式会社	4,327,000	6.35
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口	3,255,000	4.77
株式会社みずほコーポレート銀行	2,965,040	4.35
橋本産業株式会社	2,710,700	3.97
リンナイ株式会社	2,682,464	3.93
株式会社損害保険ジャパン	2,150,000	3.15
東燃ゼネラル石油株式会社	1,992,961	2.92
全国ミツウロコ会持株会	1,757,884	2.57

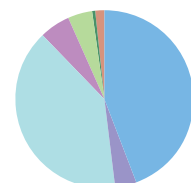
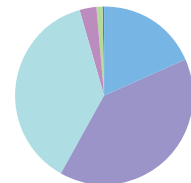
分布状況（2009年9月30日現在）

所有者別の株式分布状況

● 個人・その他	12,605,375株	18.45%
● 金融機関	27,086,507株	39.75%
● 金融商品取引業者	55,435株	0.08%
● その他の国内法人	25,559,234株	37.51%
● 外国法人等	2,003,485株	2.94%
● 自己名義株式	827,272株	1.21%

所有株数別の株主分布状況

● ~499株	1,869名	44.35%
● 500~999株	165名	3.91%
● 1,000~4,999株	1,665名	39.51%
● 5,000~9,999株	235名	5.57%
● 10,000~49,999株	186名	4.41%
● 50,000~99,999株	27名	0.64%
● 100,000株~	66名	1.56%



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.mitsuuroko.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

郵便物送付先・お問い合わせ先

郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (未払配当金の受領など)

ご注意

- 株主名簿管理人の事務センター移転に伴い、平成21年1月5日より郵便物送付先が変更となっております。
- 証券会社等をご利用の場合は、住所変更や単元未満株式買取・買増請求等は引き続きご利用の証券会社等へご連絡願います。未払配当金については、左記にお問い合わせください。

